



テレワークを妨げる
ワークフローを電子化するには？
～効率的な電子化の方法～

日鉄ソリューションズ株式会社

デジタルテクノロジー&ソリューション事業部 営業部

テレワークを妨げている社内の申請業務

申請業務は、社内の多くの業務に関連しています。そのため、申請業務が電子化されていないことで、出社をしなくてはならないことも多々あります。

稟議書など（関係者が多い申請業務）

稟議書は、「●●さんが承認している」「●●さんがx xを審査している」など自分が承認する前に、誰が審査して承認しているか、「社長、役員には対面で説明しないと」など、なかなか電子化が進まず、テレワークを妨げている申請業務のひとつとなっています。

見積り審査、支払依頼書など（社内業務システムの操作が必要なもの）

見積り審査、支払依頼書などは、社内承認の後、社内の業務システムで正式書類を出力することが必要な申請業務です。社内の業務システムが社外からアクセスできないことから、出社が必要になり、テレワークを妨げている申請業務のひとつとなっています。

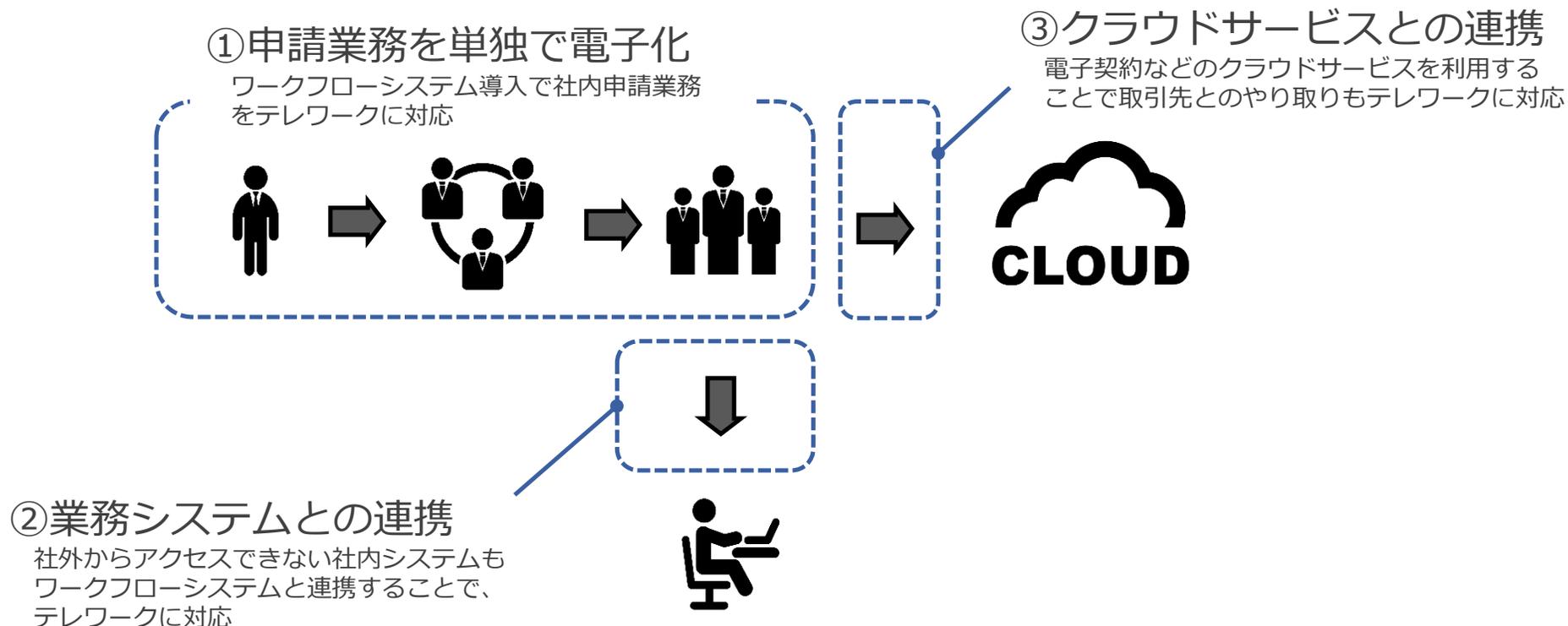
捺印申請など（会社印が必要な申請業務）

捺印申請は、取引先に会社印を押して提出するための申請業務です。物理的な会社印を押すために出社が必要になり、テレワークを妨げている申請業務のひとつとなっています。

申請業務の電子化範囲

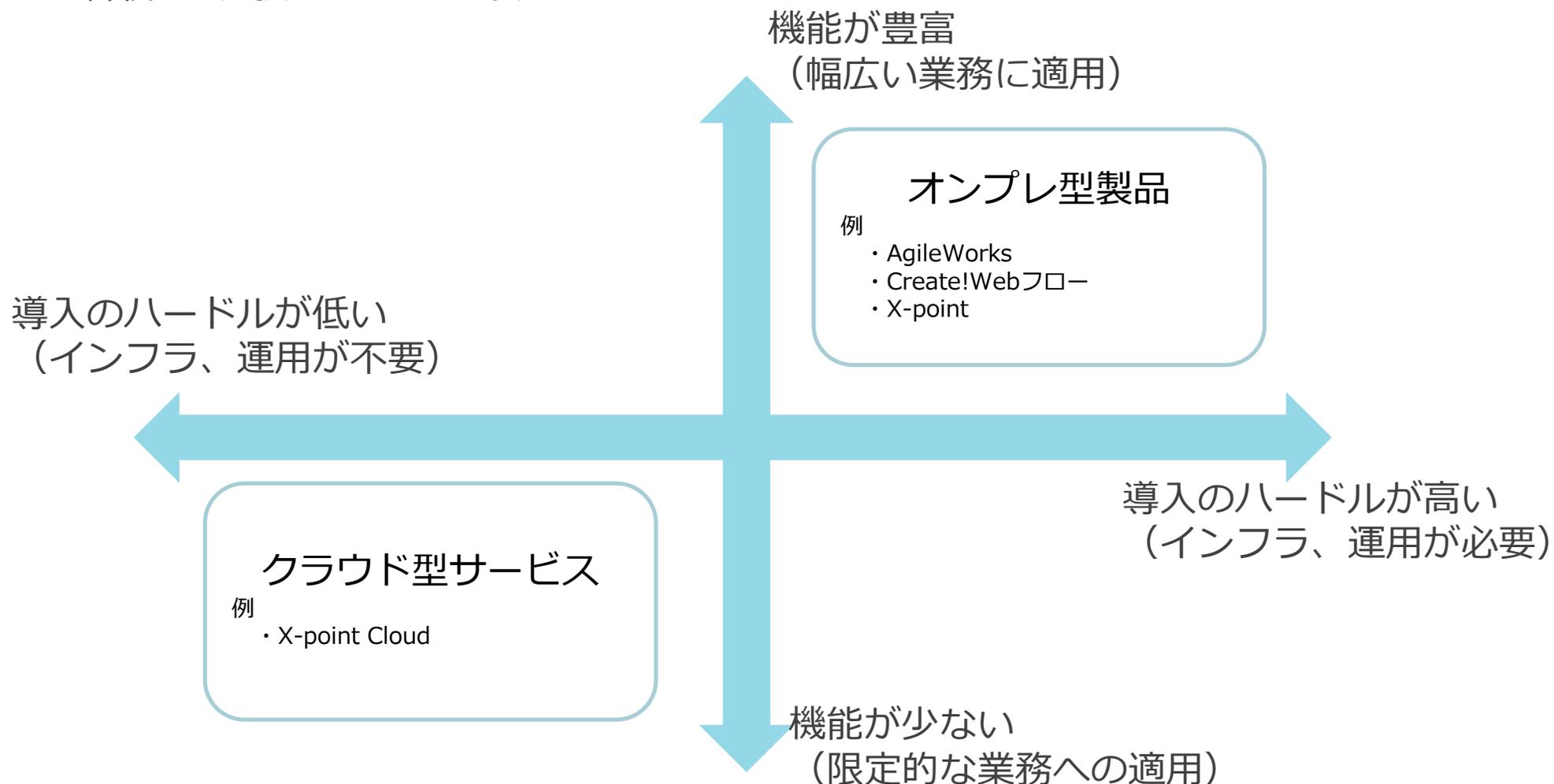
申請業務の電子化は、電子化の範囲によっては、電子化の効果を発揮できず、テレワークを妨げる要因となってしまいます。

- ①申請業務を単独の電子化（ワークフローシステム）で効果を発揮する「稟議書」
- ②業務システムを連携して効果を発揮する「見積り審査・支払依頼書」
- ③クラウドサービスを連携して効果を発揮する「捺印申請」



申請業務の電子化を実現する製品・サービス

申請業務を電子化する製品・サービス（ワークフローシステム）には、様々な特徴をもつ製品が存在しています。導入のハードルが低く、すぐに導入できる「クラウド型のサービス」、機能が多く、幅広い業務に適用できる「オンプレ型の製品」、自社のニーズに応じて、適切に評価して選択することが重要です。



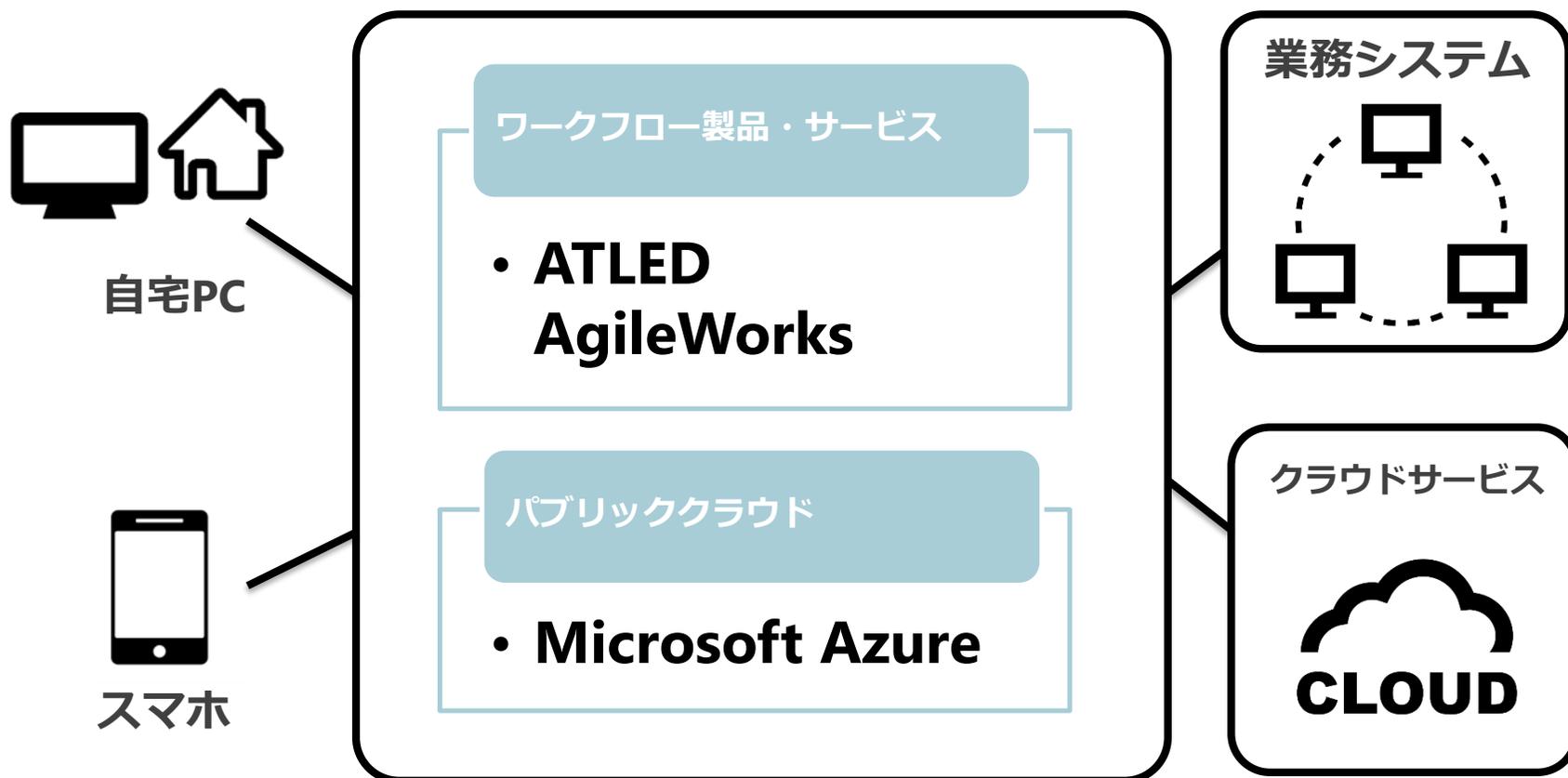
クラウド型とオンプレ型のメリット・デメリット

	クラウド型のサービス	オンプレ型の製品
特長	インターネット上に、提供されているシステム（サービス）を使用する	自社内に、システムを構築して使用する
メリット	<ul style="list-style-type: none">・初期コスト低、短期間導入・運用負荷低	<ul style="list-style-type: none">・カスタマイズ可能・セキュリティ対策可能
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・カスタマイズ困難・セキュリティ面の懸念	<ul style="list-style-type: none">・初期コスト高、導入期間は比較的長い・運用負荷が懸念

- ◆ クラウド型は、短期間で導入できるため、即効性はあるが、業務に合わせたカスタマイズが困難なため、広範囲で電子化を進めることは難しい
- ◆ オンプレ型は、業務に合わせたカスタマイズができ、広範囲でワークフロー電子化を進めることができるが、システムの導入、運用面でのハードルが高い

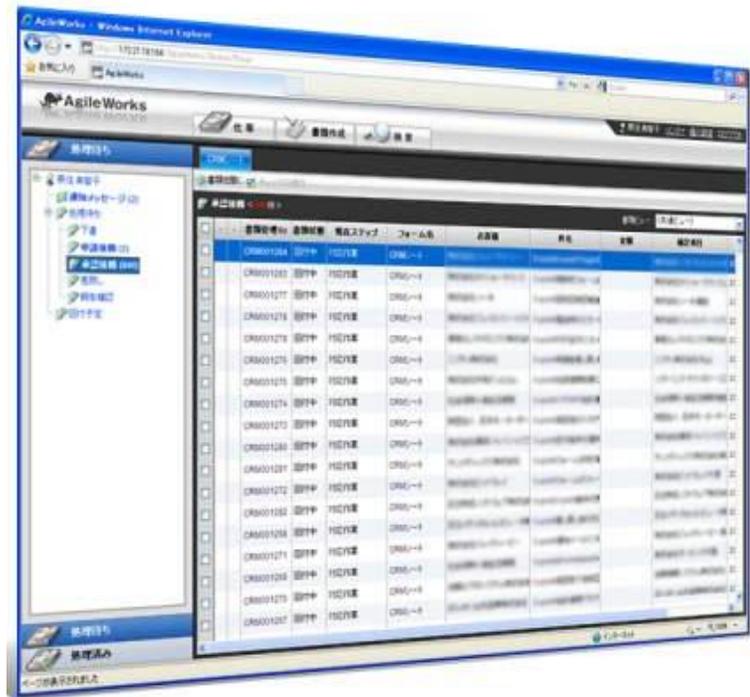
クラウド型・オンプレ型を融合した構築事例

- ◆ パブリッククラウド上に、オンプレ型ワークフロー製品を構築
 - インフラ構築、運用などワークフロー電子化のハードルを低減⇒パブリッククラウド
 - 様々な業務対応できる（機能豊富、カスタマイズ可能）製品⇒オンプレ型製品



オンプレ型製品の紹介（ATLED社製 「AgileWorks」）

- ・ 多様な申請業務に適用でき、長期利用しているお客様の評価が高い製品
- ・ 大企業（数百~数万名）の複雑な組織構造、承認フローに対応
- ・ 様々な業務に対応できる柔軟なアドオン開発をサポート。



複雑な承認フローへの対応

稟議の複雑なフローをプログラミングなしで実現

直感的なウェブフォーム

使用している申請書をそのままウェブ化

複雑な組織管理に対応

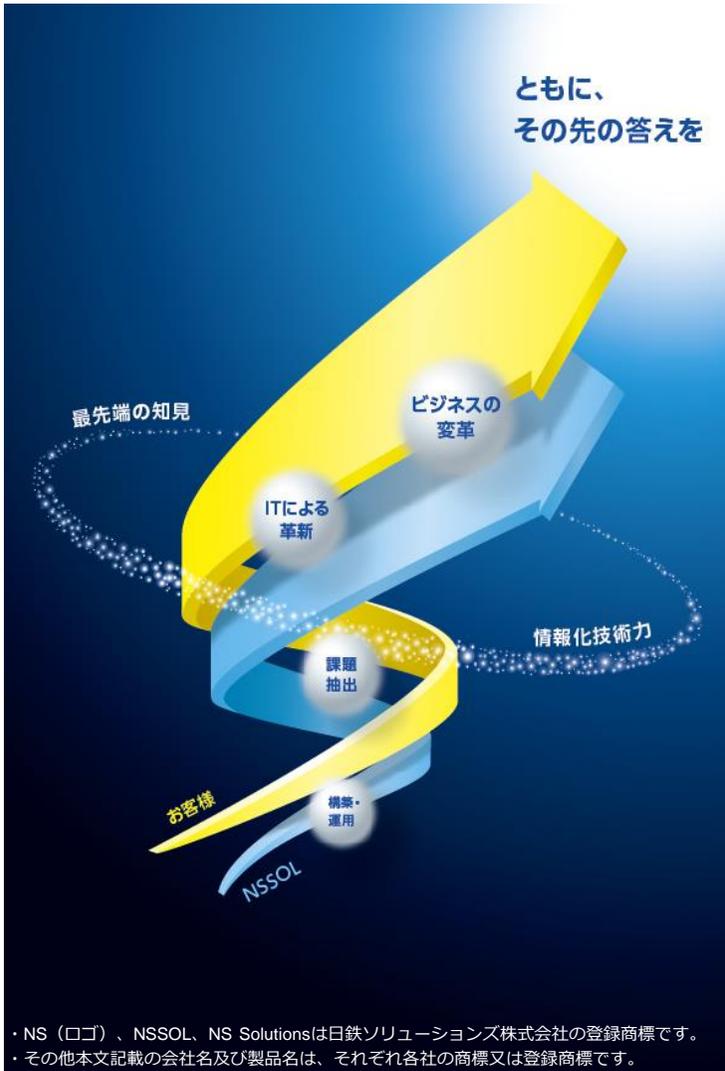
組織変更の事前準備、参照権限の移行

他システムとの連携

アドオン開発のためのフレームワーク、API

内部統制対策、情報活用

証跡、アクセス権限、各種ロギング、検索



きょうのベストが
明日もベストとは限らない変化の時代
ビジネスのあらゆる局面で
情報技術による革新が求められています
この変化に お客様が描く未来とは

その先の姿を
ともに見つめ ともに切り拓くこと
それが私たちの使命です

情報化を牽引してきた技術力
革新をもたらす最先端の知見
ふたつの力を束ね 私たちは挑み続けます
あしたを もっと輝かせるために

ともに、その先の答えを